



園長のワンポイント ～ 主体性と楽しさを育む「あおぞら園運動会」～



全国的に運動会のシーズンで、あおぞら園でもちょうどこの通信が届く頃に運動会開催を予定しています。最近の園所や小学校の運動会の傾向として、順位や勝敗をつけないプログラムを組み込むことが増えています。徒競走や得点制の競技など優劣や勝敗でこどもを評価するのではなく、身体を動かす楽しさやこども同士の協力や参加の喜びを重視するという目的が重視されてきています。例えば「かけっこ」では、「ようい、スタート!」で全員がその会場内を他児とぶつからないように自由に走り回り、一定時間が来たら「ストップ」で止めるようなやり方もあるようです。近年、益々こどもの個性や多様性が重視されるようになって、競争心、忍耐、根性といった一律の価値観が重視されていた時代から脱却する意図があるように思います。一方で、こうした運動会のあり方には批判もあり、「勝敗があるからこそ努力する」、「教科のテストには点数や成績があり、それはスポーツでも同じこと」、「負けても立ち直る気持ちを育てることも重要」など、従来の運動会の利点を強調する声もあるようです。

もともと学習指導要領の『体育科』の目的には、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図る」としたうえで、「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」とあり、本来運動は楽しくあるべきものです。

尚、あおぞら園の運動会のねらいについては、こどもたち一人ひとりの主体性が発揮できることと、参加する楽しさを感じることを目指します。主体性については、できるだけこどもが一人で考えて一人で行動できることを促したいと思います。こどもが取り組むプログラムに対して職員が補助や誘導をし過ぎることなく、なるべくひとりで取り組む気持ちを育むことを目指します。

また、プログラムを通じて参加する楽しさを感じるためには、その分こども自身が頑張る必要があります。簡単にできる課題ばかりでなく、少しでも努力して乗り越えること、段階付けた中でより難しいことにチャレンジすることが重要です。そこで生じる達成感(ときには口惜しさも)を感じる事が楽しさにつながります。こうした取り組みは、運動会だけでなく日々の療育でも同様ですが、他の誰かと比較するのではなく、こどもたち一人ひとりが努力して今の自分をさらに超えていく姿を皆で応援したいと思います。



市民救命士講習を行いました ～ 緊急の事態に備えて ～



あおぞら園・きらきらでは3年に一度、園内で市民救命士講習を実施しています。今年も明石市消防局防災センターの3名の方に来ていただいて、遊戯室で講習会を行いました。今回は、成人を対象とした心肺蘇生法(胸骨圧迫と人工呼吸)とAED(自動体外式除細動器)の使い方に加えて、特に小児と乳児を対象にした心肺蘇生法とAEDの扱い方をそれぞれの大きさの人形を使って学びました。体の小さな子どもへの取り付け方や、力加減を調節して圧迫するコツなどを、直接お子さまを支援する職員15名が体験しました。



小さな人形の胸をリズムに合わせて圧迫していると、実際に園児に処置をしているような感覚になってきて、万が一、何か喉につめてしまったり、意識を失ったりした時にすぐに対応できるようになっておかなければならないと強く感じました。参加した職員全員が同じ気持ちになっていたと思います。

あらためて実際に練習することの大事さを思うとともに、すべての職員が緊急の事態に対処できるよう心がけておくことが必要だと感じました。(副施設長・吉川)

ひまわりっこクラブ ～ 親子でゆっくり関わる時間に ～



今年度、初めてひまわりっこクラブに参加させていただきました。今回は以前にも参加したことのあるきょうだい児さんたちだったこともあり、最初は少し緊張気味だったお子さまもすぐにリラックスしてくれている様子でとても嬉しい気持ちになりました。当日は、親子でジェスチャーゲームや「TANO(タノ)」というモーションセンサーを利用した体験型のゲームをしたり、夏祭りらしいお菓子掘みや射的、うちわ作りなど色々なコーナーを設けました。「ママ見て!」「これやりたい!」等と親子で楽しそうに遊ぶ姿がとても印象に残っています。

お母さんは日々の生活で仕事や家事、育児を精一杯頑張られている中で、お子さま一人一人との時間を設けることはなかなか難しいと思いますが、あおぞら園でのひまわりっこクラブを親子でゆっくり関わるきっかけにしたいなと思います。(稲田)

明石海浜公園プール体験会 ～ お子様のやってみたいを大切に ～

8月28日(木)に第2回目の海浜プール体験会に参加させて頂きました。どのお子様も入口から楽しみにしていた様子があり、早くプールに入りたい姿が見られました。体験会では保護者の方や指導員と一緒にダイナミックに体を動かして楽しむことができました。普段の活動だけでは見られない表情が沢山みられ、お子様も自ら足を動かしたり、指導員の手を引いたりして意欲的に楽しむ姿が多く見られました。

好きなことや得意なことからお子様のやってみたい気持ちや自ら取り組もうとする気持ちを今後も様々な活動や行事を通して大事にしていきたいと思いました。(大杉)



就園説明会 ～ お子様にとってより良い進路選択のために ～



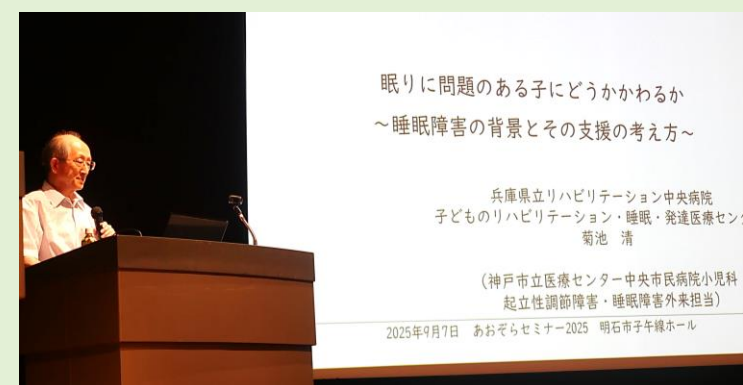
9月1日(月)に就園を控えているあおぞら園・きらきらの保護者の方を対象に明石市こども育成室の森本様に就園に関してお話を頂きました。幼稚園生活についてやつくしの部屋、ことばの部屋、加配についてなど様々なお話を頂きました。お話を頂いた後は、保護者の方からの質問についても丁寧に返答を頂きました。

就園を控えた保護者の方は、不安に思うことや心配に思うことなど様々な気持ちがあると思います。保護者の方のお話を随時聞きとりながらお子様にとってより良い進路を考えていきたいと思っています。(山下)

あおぞらセミナー開催 ～ テーマの「睡眠」に関心高まる ～



9月7日(日)、あおぞらセミナー2025を開催いたしました。今回は兵庫県立リハビリテーション中央病院、子どものリハビリテーション、睡眠・発達医療センター長の菊池清先生に、こどもの睡眠問題についてお話を頂きました。このテーマへの関心の高さか、当日の聴講者はスタッフも含め100名近くにもなりました。



眠りに問題のある子にどうかかわるか
～睡眠障害の背景とその支援の考え方～

兵庫県立リハビリテーション中央病院
子どものリハビリテーション・睡眠・発達医療センター
菊池 清

(神戸市立医療センター中央市民病院小児科
起立性調節障害・睡眠障害外来担当)

2025年9月7日 あおぞらセミナー2025 明石市子健ホール

菊池先生が特に強調されていたことは、眠りに問題のあるとこどもは脳と体の機能が低下してしまい、昼間の活動性低下となる、支援で大切なことは、①こどもや家族への傾聴など支持的なかかわり、②安心できる環境づくり、③適度な運動、④体質要員が強い場合は薬物も必要、とのことです。睡眠だけでなく、食事や活動など、日々の生活習慣をさないで安定させることの重要性を改めて再認識しました。(園長・若林)